



MIESC 三重県産業支援センター

人と中小企業をサポートする

MIESC

ミ

エ

ス

ク

Mie Industry Enterprise Support Center

2012 冬号

Vol.47

リレー企業訪問
ヤマザキフェンス工業株式会社

つひったー
アイドウ株式会社

私たちがサポートします!
密着!コーディネーター

下請法クイズ 後編

地域資源を活用した
ビジネスの創出



特集 高シェア維持の秘密を探る
**独創性と技術力で
業界をけん引するものづくり**

銀峯陶器株式会社



つながる+
ひろがる+
たずさわる

つひつたー

三重県産業支援センターでは、ビジネスの支援だけではなく、研究機関・企業・自治体との連携による事業創出や、企業間連携・交流の仲立などを行っています。

アイドウ株式会社



位田(いわた) 駿彦社長

あります。三次機能とは、食品に含まれるさまざまな栄養素が、体調のリズム調節や疾病の予防・回復、老化制御や体温調節機能など、大変有効な働きをすることです。その効果が実証・検証されているものです。

——このような食品を作るようになつたきっかけはどういうことですか。

大学などの先進的な研究機関と連携。食品素材の三次機能の実証された効果を有効活用するとともに、さらに先進的で有効な食品を企画販売することを助けるなど、社会貢献をめざしています。

——食品素材の三次機能（体調調節機能）について教えてください。

食品には、生命維持のための栄養機能の働きである「一次機能」や食事を楽しむ（美味しさを感じる）「二次機能」がありま

す。そのきっかけは、10数年前にアメリカから日本に紹介されたNST（Nutrition Support Team）になります。これは、医師や看護師、栄養士など医療従事者がチームを組んで、患者さんが一日も早く回復できるように栄養面から検討するチーム医療のことですが、これがまさに食品の三次機能を活かしたこと。

NSTとは、それまでのようになり、食品の三次機能を活かしたこと。脈や腸ろうからではなく、できるだけ早く経口移行できるように、チームで患者さんの回復を検討する活動。こうして取組みが広がる中で、栄養について正しく理解し、知識をもつた医療従事者が増え、薬だけではなく食品の三次機能を有効活用するようになっています。つまり一人ひとりの患者さんのベッドサイドで活用できるメディカルフーズ（病者用食品）、それを私たちには、「ベッドサイド利用食品」と呼んでいます。

——要介護者や病人向け食品を「ベッドサイド利用食品」という言い方をされていますが、どうですか？

たとえば、グルタミンFという商品は、

腸を元気にする働きがあります。重篤な寝たきりの患者さんなどの場合、点滴などによる静脈栄養になります。そうすると、内臓を使わないため内臓の機能が衰えてしまいます。その後、口から何を食べようとしても受け付けなくなってしまいます。そこで、この商品をベッドサイドで摂取することで、腸が元気になり、食べ物を受け付けられるようになります。ほかにも食物繊維とヒト由来のビフィズス菌を含んだ食品や食品成分だけで作った口腔ケア商品。また、栄養強化味噌汁や簡単にたんぱく質が摂取できる大豆粉などがあります。

——創業して6年にならますが、どのようなご苦労がありましたか？

信用力ですかね。会社勤めのころは、バツクに会社があつたのでいろいろな企業と取引ができましたが、起業後は0からのスタート。「どんな会社？」「そんなの売れるの？」というところから始めなければいけませんでしたから。とくに最初の2年ほどは苦労しましたね。ただ、



高齢者などの口腔ケア商品で新たな市場を開拓



同社が開発した三次機能をもつ食品

開発設計や生産などについては順調だつたといえますね。

— 生産体制はどうしているのですか？

商品は、すべて委託生産で行っています。ナイキというシユーズメーカーがありますが、そこは生産のほとんどを世界中の協力工場で行って設備などのコストを抑え、自らは宣伝広告に特化することでブランドを高めています。それをモデルに、当社も基本的には生産設備をもたずにやろうと考えていました。中には、工場を持つべき、といわれることもありますが、それなら私は徹底して開発設計を行う頭脳集団をめざしたいと考えています。

— 御社の強み、セールスポイントは何ですか？

私たちは、何か1分野で100点ではなく、幅広いフィールドすべてで80点を取れることをめざしています。まだ未成熟の分野ではありますが、そのパイオニアとしての自負もあります。技術力や総合力を持っていることが当社の強みです。

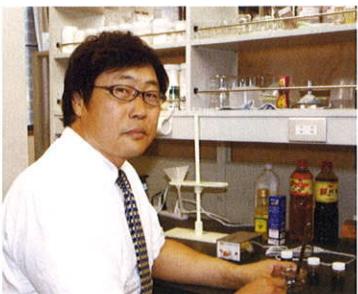
— 三重県産業支援センターのサポートについてお聞かせください。

非常に助かっています。とくに、コーディネーターさんは補助金などの申請など、細かいところまでアドバイスを



島田コーディネーターと位田社長

研究開発の一大研究所をもちたいというものが最大の夢。その研究所で独立性の高い商品開発を行い、新しい市場を開拓したいですね。そして、やがては海外へ進出し、10年内には上場を果たしたいと思っています。



問アイドウ株式会社
〒510-0943 四日市市西日野町256
TEL 059-358-0092

島田コーディネーターより

アイドウ株式会社は、会社設立が平成19年という社歴の若い会社ですが、食べることにより患者の機能回復や健康増進を図るという、食品の三次機能に着目した新規食品を開発しています。食品の三次機能は、大学等での確認・検証が必要であること、普及時間がかかると思いますが、また、医師、看護士、栄養士にとても新しい概念ですので、普段の機能回復に拘わる大切な食品ですので、必ずや大きな花を咲かせる時期がくると思っております。そうは言つても規模の課題はありますので、目標を設定し、一歩ずつ着実に進むことが必要です。

— 将来の夢をきかせてください。

いただき、大変勉強になりました。とにかく、創業当初の苦しい時期に、補助金などの支援はもちろんですが、こうした人によるサポートありがたかったです。